観音寺城跡 探訪

2024.12.21

相野駅山の会　伊富

【歴史・沿革】

標高 433m の繖山（きぬがさやま）に築かれた、近江国守護佐々木六角氏の居城跡。
きわめて大規模な山城で、「日本五大山城」に選ばれ、「日本百名城」に登録されている総石垣の城。

正確な築城年代は定かでないが、古典『太平記』には、南北朝時代の建武 2 年（1335 年）に、南朝側の北畠顯家（きたばたけ あきいえ）軍に備えて北朝の六角氏頼が篭もったという記述があり、そのころには築かれていたと考えられている。

室町時代の応仁の乱では、六角高頼が西軍に属したため同族の京極持清に攻められている。応仁の乱では 3 度、観音寺城の攻城戦が展開される。

永禄 11 年（1568 年）、尾張の織田信長が足利義昭を擁して上洛の軍を興すと六角氏は敵対し、9 月 13 日に信長に支城の箕作城と和田山城を落とされると、六角承禎（しょうてい）・義治親子は観音寺城から逃げ無血開城しました。

10 年後の天正 7 年、安土城が完成したことにより、廃城となる。

【主な遺構】

本丸

標高は 395m、面積は約 2000m^2、主な遺構としては、礎石、暗渠（あんきょ）排水跡、溜枡（ためます、貯水槽）、食い違い虎口跡、幅 4m の大手石階段などがある。
またここには「二階御殿」があったと言われている。
この本丸は江戸時代の古絵図に「本城」と記されていることから、城の中核部分と思われていますが、ここよりも高い地点にも郭が存在すること、この場所が郭の分布する範囲の西端に位置することなどから、城の中核部分として理解してよいかは疑問が持たれている。
また大手道と考えられる大石段ですが、大石段から城下町の石寺につながるルートの一部がまだ確認できていません。

大石段

排水溝

平井丸

平井丸は、標高 375m で面積は約 1700m^2、平井氏の居館があったのではないかと思われている。観音寺城の中でも石垣、石塁の規模が最大の曲輪跡である。
その中で特徴的なのが、高さ 3.8m、長さ 32m にも及ぶ虎口跡があり、2m 以上の石も使用されている。また南側には幅 0.8m、高さ 1.3m の潜り門（くぐりもん）もある。
ま北東には張り出しを持つ建物とそれに付随する庭園跡がある。

池田丸

池田丸は標高 365m、面積は約 2700m^2 で、最南端に位置し、本丸にある御屋形へ通じる城戸口になっている。またこの曲輪は南曲輪と北曲輪に分けられ、周囲は土塀をめぐらし、南面には庭園をもつ主殿や溜枡等が発掘されている。

池田丸跡

淡路丸

観音寺城の東の端に一郭独立したような形で、府施氏の居館淡路丸の曲輪跡があり、丁度観音寺城の鬼門の方向に当たるとされている。
大きさは、東西 43m×南北 50m の規模があり、周囲には土塁、東西、南側には土塁の内、外側に石垣を築いている。この曲輪は、南西、西の中間、北東の 3 か所の虎口を設けている。また南外側では、道路を挟んで上下斜面に腰曲輪跡が残っていて、淡路丸に付随したものと考えられている。曲輪を土塁で囲む、構築法がシンプルである。

曲輪の名称に、「二の丸」や「三の丸」のような数字ではなく、人の名称が使用されたと伝承されている。これは、六角定頼の時代に家臣団、国人衆を観音寺城へ居住させ、文献上では初めて「城割」を実施したためではないかと推定されている。

大石垣

観音正寺